Dec.2016 No.371

福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER

シジュウカラ（2014年11月21日）

エナガ（2014年11月16日）

キビタキ（2014年9月11日）

トラツグミ（2015年3月5日）

足羽山の四季の野鳥（撮影：副館長　坂　靖志）

福井の自然史情報

足羽山の野鳥

平成29年の干支は酉（とり）。鶏は私たちの食材として欠くことのできないものですが、野鳥たちもその愛らしいしぐさで、私たちにつかの間の安らぎを与えてくれたり、時として四季の移ろいを知らせてくれたりします。

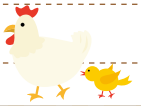
足羽山は、街中にある山にもかかわらず多くの種類の野鳥に出会うことができ、約70種の野鳥が記録されています。四季折々の野鳥たちの営みに、ちょっと目を向けてみませんか？

中に「干支展・酉」、裏面に足羽山の野鳥に関する記事があります。

ニワトリってどんないきもの？

ニワトリ

代表的な家禽（人間の生活に役立てるために飼育される鳥）として世界中で飼育されています。起源は東南アジアの密林や竹林に生息しているセキショクヤケイとされています。



烏骨鶏（うこっけい）

ニワトリの品種の1つで、国の天然記念物です。特徴として、成鳥になってもヒヨコ同様羽毛が綿毛となっていること、肉、内臓とも黒色をしていることなどがあります。他の品種と比べて産卵数が少ないため、卵は高値で取引されています。

ニワトリの骨格標本

鳥の骨は中が空洞になっており、頑丈でありながら軽く、空を飛べるようにつくられています。また鳥の体で一番大きな筋肉は胸筋で、胸筋がつく胸骨が大きく発達しています。この筋肉でつばさを上下に動かして、体を宙に浮かせる力を生み出しています。

［写真・文／非常勤職員　金剛晴彦］

「干支展・酉」- 鶏ってどんないきもの？ -

博物館では**平成28年12月3日㈯から平成29年１月29日㈰まで**、平成29年の干支である「酉」にちなんで、鶏や足羽山にくらす野鳥を紹介するミニ企画展を開催しています。トリの剥製や骨格標本、生態写真などを1階ホールにて展示していますので、ぜひお越しください。

野鳥は何を食べている？

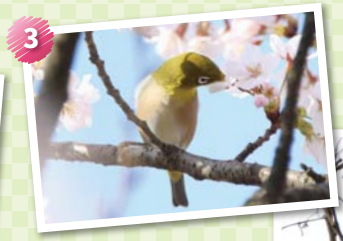
～足羽山は野鳥のレストラン!?～

足羽山を散歩していると、食事中のいろいろな野鳥に会うことができます。例えば、当館のマスコットキャラクター「シジュウオ」のモチーフであるシジュウカラは、草木の芽や昆虫などを食べている姿を見かけます［写真1］。また、シジュウカラと同じカラ類のヤマガラは、草木の芽や昆虫なども食べますが、秋には他の野鳥があまり食べないエゴノキの実を食べている姿を見かけます［写真2］。足羽山は野鳥たちに四季折々いろいろな食べ物を提供してくれる、まるで野鳥のレストランです。

このレストランでは、他にもいろいろなメニューが出されます。春はサクラの蜜をメジロに［写真3］、秋はハリエンジュの種子をイカルに［写真4］、というように。

また、野鳥たちの食事の様子は、それぞれ個性あふれるとてもかわいらしい瞬間です。

野鳥を見かけたら、ぜひその姿をじっくり観察してもらいたいと思います。　（写真・文／学芸員　加藤英行）



［写真１］サクラのつぼみを食べるシジュウカラ（2016年1月28日）
［写真２］エゴノキの実をくわえて飛び去るヤマガラ（2015年9月20日）
［写真３］サクラの蜜をなめるメジロ（2016年4月1日）
［写真４］ハリエンジュの種子を食べるイカル（2015年11月18日）（すべて足羽山で撮影）

絶滅危惧種の昆虫をテーマとした展示パックを貸出します。

ミニガイド

県内で絶滅のおそれのある野生動植物の生息状況をとりまとめた「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物2016」（通称：改訂版福井県レッドデータブック）が今年の春に発表されました。当館では、昆虫、植物、脊椎動物担当の学芸員が県のレッドデータブック改定事業に携わっており、その調査成果を踏まえて、2016年3月19日から5月22日に第81回特別展「昆虫たちのメッセージ～守り伝えたいふくいの自然環境～」を開催しました。この展示では、福井県内で絶滅のおそれのある昆虫にスポットを当て、県内での自然環境の変化、野生生物を保全する意義について紹介しました。

貸出標本①
里山に生息する絶滅危惧種の昆虫

貸出標本②　ヤシャゲンゴロウ

この度、平成28年度笹川科学研究助成（研究番号：28-829）を活用し、前述の展示内容をコンパクトにまとめた貸出し用の「展示パック」と「ミニガイド」を作製しました。展示パックには、里山、水辺、河川・河原など、環境別に絶滅危惧種の実物標本とその拡大写真、簡単な解説を標本箱に収めました。また、環境省中部地方環境事務所の協力の下、世界でも福井県の夜叉ヶ池にしか生息しない「ヤシャゲンゴロウ」の貸出し標本も準備しました。ミニガイドでは、展示解説に加え、地域での自然調査、自然保護活動に役立てていただけるよう、絶滅のおそれのある昆虫を題材とした自然観察のヒントも掲載しています。

展示パックは昆虫標本（6種）、解説タペストリー、標本用展示台、ミニガイド30部、第81回特別展の展示解説書1冊をセットで貸出していく予定です。また、ご希望があれば学芸員による展示解説や、簡単な自然観察会も行います。

展示台付で標本を貸し出します。

ふるさとの自然を守っていく第一歩は私たち一人ひとりが身近な自然に関心を持つことです。この展示パックが地域での自然保護活動や学校での授業等にお役立ていただけることを願っています。

展示パックのお問い合わせは福井市自然史博物館（担当：梅村）まで。

（写真・文／学芸員　梅村信哉）

自然史リレーエッセイ 41

足羽山の野鳥を見つめて

坂 靖志
（福井市自然史博物館副館長）

子供の頃の一番身近な鳥といえば、チャボだったように思う。小さい鶏で、農家の庭先でよく追いかけ回して遊んだ記憶がある。そこで、改めて記憶の中の鳥をたどってみると、スズメを除いて、カラス、ツバメ、とんび（トビ）…と、その姿が記憶に結びつく鳥が実に少ないことに気づいた。いやいやもっとあるだろうと、鳴き声から思い出そうとしても、トビ、ウグイス、カッコウなどは確かに聞いたといえるのだが、ツバメは果たして鳴くのかと考え込んでしまう。

そんなわけだから、足羽山の自然史博物館に勤め始めたころは、鳥のさえずりを聞いても気にも留めなかった。ところが、一月もすると何の鳥だかわからないが、よく鳴く声が聞こえてくる。しかも、何種類かいるようであるということに気づいたのである。そうなると、不思議と興味が湧き、毎日のように博物館前の三段広場を中心に鳥を探して歩くようになった。

初めて見た鳥の名前を野鳥の本などで確かめてはということを繰り返しているうちに、足羽山の鳥についていくつか気づきはじめた。例えば、スズメは桜の花が咲く頃から夏頃までは見かけるが、そのほかの時季にはいないとか、春と秋の鳥の渡りの時期に、ミサゴやサシバなどの猛禽類が足羽山の上空を飛んでいくことなどである。実際は、鳥たちの生態を垣間見たというだけの話ではあるが、自然界の中で繰り返されながらも続く鳥の生活を楽しんでいると考えれば、なんとも贅沢なことだとも感じている。

ここでは、そんな楽しみのいくつかを紹介してみたい。まずは、ヤマガラとエゴノキの実である。三段広場では天魔池（てんまがいけ）の周りに3本のエゴノキがあるが、盆も過ぎる頃には鈴なりに実がつく。この実が、ヤマガラは大好きなのである［写真1］。実を採りにエゴノキに何羽も飛来するので、けんかをしたり、どの実を採ろうか迷ったりと見ていて大変おもしろい。また、実はすぐに食べることもあるのだが、ほとんどはどこかに隠しておくために、実を銜（くわ）えて飛んでいく。博物館の玄関からは、右に左にと飛び交うヤマガラを眺められる。

［写真1］エゴノキの実をくわえたヤマガラ

春から初夏にかけては、シジュウカラ［写真2］、ヤマガラ、エナガ［写真3］、メジロ［写真4］、ヒヨドリ、スズメの子育てを楽しむことができる。桜の花が咲く前には、苔（こけ）や羽毛を口に銜え巣作りに、桜の花が散る頃からは、小さな口ばしに何匹もの虫を捕らえた鳥たちを三段広場のあちらこちらで見ることができる。巣立ったばかりの若鳥たちが、親鳥を呼ぶ声も聞こえてくる。

冬になると、森閑（しんかん）とした林の中から木をたたく音が聞こえてくる。そっと探してみると、まれに立ち木でアカゲラ［写真5］やアオゲラが虫を探しているところを目撃できる。雪の降る中、彼らの姿を見つけることができたときは、不思議と足羽山の豊かさを感じるのである。まだまだ他にも、鳥たちのおもしろい生態を見ることができるので、鳥の声を聞いたときは立ち止まってみることも、足羽山を楽しむ一つだと感じてほしい。

［写真2］シジュウカラ

［写真3］エナガの子育て

［写真4］メジロ

［写真5］アカゲラ

《あとがき》

平成29年の干支である酉にちなみ、博物館でも12月3日より「干支展・酉」を開催しています。この企画展では、鶏の剥製や骨格標本を展示をするほか、足羽山で見られる野鳥についても紹介をしています。

足羽山は街中に囲まれた山ですが、四季を通して約70種の野鳥の記録があり、鳥たちにとって比較的棲みやすい環境が残されているといえます。四季折々の野鳥たちの営みは、その愛らいしぐさでつかの間の安らぎを私たちに与えてくれるとともに、時として懸命な子育てや食う－食われるという命のやりとりを通して自然の厳しさのひとコマを見せてくれます。今回の企画展が、足羽山で懸命に生きる野鳥たちに目を向けるひとつのきっかけになればと思っています。（梅村）

《交通案内》

【電 車】
- 福井鉄道福武線 足羽山公園口駅・商工会議所前駅 各徒歩20分

【バ ス】
- 京福バス：清水グリーンライン（74系統）足羽山公園下バス停（あじさいの道登る）、不動山口バス停（藤島神社登る）各徒歩10分
- コミュニティバスすまいる：西ルート（足羽・照手方面）愛宕坂バス停 徒歩10分
- まちなか観光周遊バス：足羽山バス停 徒歩3分
  ※平成29年3月26日(日)までの土日祝日（12月～2月運休）

【徒 歩】 JR福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間 ● 午前9時～午後5時15分（入館は午後4時45分まで）
休 館 日 ● 月曜日（祝日は開館）、祝日の翌日、年末年始
入 館 料 ● 高校生以上100円（20名以上の団体は半額）中学生以下、70歳以上、障害者および付添の方は無料

編集・発行 福井市自然史博物館
〒918-8006 福井県福井市足羽上町147 TEL:0776-35-2844 FAX:0776-34-4460
E-mail:sizen@city.fukui.lg.jp URL:http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp

PRINTED WITH SOY INK